

県産モズク今年も不作

16年産 日照不足で目標届かず

2016年産(15年12月～16年7月)県産モズクの生産量が、前期比6・9%増の1万4693トンだったことが23日、分かった。暖冬や日照不足の影響により、本モズクは1万4335トンで目標生産数量の79%、糸モズクは3588トンで同36%にとどまり、2年連続の不作だった。県もすぐく養殖業振興協議会(上原亀一

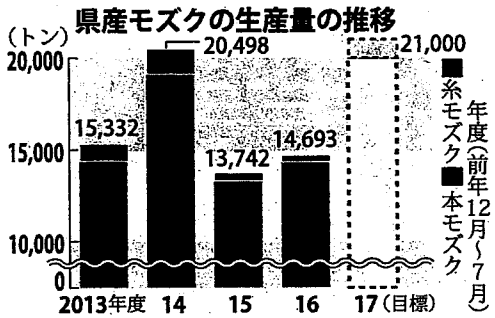
での収穫量は前期実績を下回る地域が多かったが、5月以降の収穫期後半の生産に回復がみられ、不振を一定、取り戻すことができたという。

会は17年産の目標生産数量を、本モズクが前期比2千トン増の2万トン、糸モズクは前期同様の千トンに設定した。

会長)が那覇市内で開いた16年度定期総会で報告された。同協議会によると、4月ま

全国の主要量販店713店を対象としたカップもずく販売についての調査では、過去3年間で販売金額、数量、平均価格のいずれも増加した。

また、総会では県水産課が、モズク流通の安定を図るための「調整保管事業」の積立金を有効活用するため、モズクを含めた水産物の生産、消費拡大に使えるよう、実施要領を変更したと報告した。



15年7月～16年6月の販売金額は前期比6%増の7億910万円、数量は同5%増の552万個、平均価格は同1円増の128円だった。

県内外でモズクの需要が高まっていることから、同協議